

難治性疼痛に対する脊髄硬膜外電極挿入術

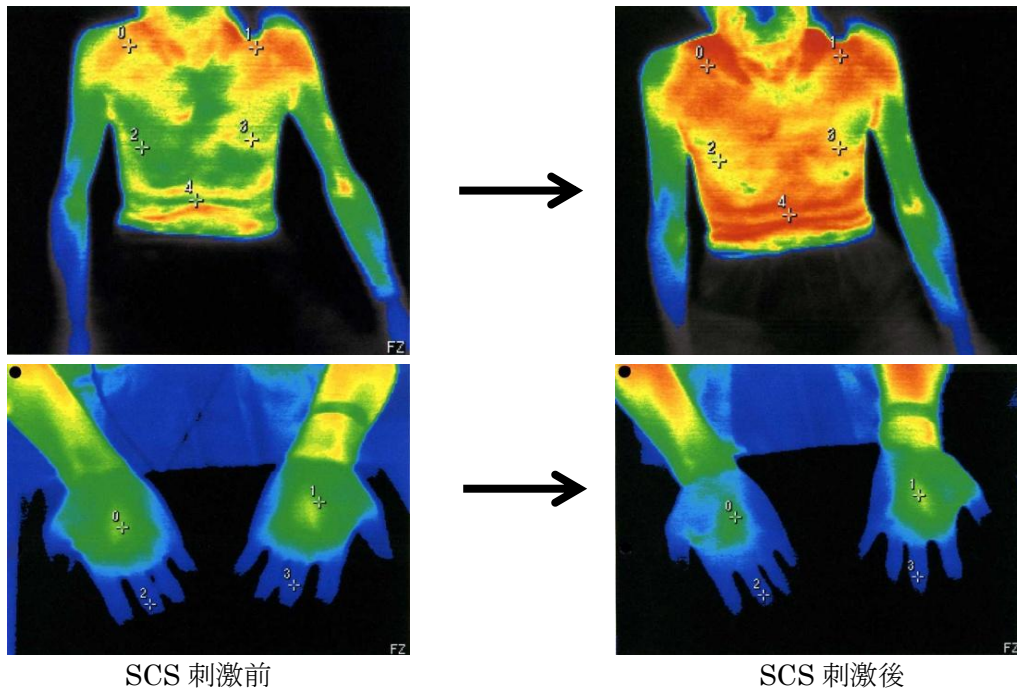
(Spinal Cord Stimulation, SCS)について

難治性疼痛には視床痛、脳卒中後片麻痺痛、failed back syndrome、帯状疱疹後神経痛などがあります。薬物治療での効果にも限界があります。薬物抵抗性の痛みに対して脊髄硬膜外電極挿入術を行うことで痛みの神経伝導路をブロックし、難治性と言われる痛みの緩和、軽減に努めています。電極の挿入そのものは局所麻酔下で行います。電極の刺激により痛みが緩和されるかどうかの試し期間を持ち、効果のあった患者さんにのみ電極の永久的な挿入と電池の体内留置を行います。SCSにより交感神経を刺激することで血管の拡張作用もあり、四肢や体幹の血流改善効果も期待できます。

上位頸椎に挿入した
脊髄硬膜外電極



サーモグラフィーによる血流改善状態



SCS 刺激前

SCS 刺激後